

市民と市議会との意見交換会開催結果（概要）

テーマ 枕崎の人口問題について考えよう！
～安心して住める夢のある「枕崎」を目指して～

開催日時	令和5年10月27日（金） 午後7時から午後8時45分まで
開催場所	枕崎市市民会館 第1会議室
参加者数	32名（議員12名は除く）

今回の意見交換会は、初めての試みとなるワークショップ^{※1}形式で行われ、32名の市民の方々が参加しました。

ファシリテーター^{※2}の上村ひさみ氏（鹿児島健康経営アドバイザー協会代表）の進行のもと、12名の議員全員が議員1人と市民2～3名の12グループに分かれ、枕崎への思いを語り合いました。

通常の見聞交換会では、例として、「あれは良くない」、「ここが足りない」とまず否定の見聞から入りがちですが、相手の見聞に対してまずは「いいね」と言い、肯定のみでやり通し、市民の声を吸い上げるワークショップ形式の見聞交換会は画期的なものとなりました。

今回の見聞交換会の最大の収穫は、多様な見聞を吸い上げることができたことです。

全てがテーマに即した見聞聴取とは言えなかったかもしれませんが、「参加者の街を良くしたいという思い」は受け取ることができました。

今後、市民の皆様からいただいた貴重なご意見を我々議員がどのように生かすかにかかっており、次回の見聞交換会がどのような形で行われるかわからないが、見聞を吸い上げるといふこの取組は、素晴らしい方策となりました。

1. 枕崎のお気に入りポイント

まず初めに、各テーブルでの自己紹介を行い、枕崎のお気に入りポイントを付箋（小さい紙）に記入し、テーブルの中央に出しながら1人ずつ話す時間が設けられました。

- ・火之神から見える海岸線 ・岩戸海岸から眺める枕崎 ・枕崎港
- ・火之神公園から見える景色、またキャンプ場は日本でも有数の場所である
- ・岩戸から降りてくるときに見える海、火之神公園
- ・まちがコンパクトで住みやすい町である
- ・別府大地から見える開聞岳 ・枕崎空港跡地の天体望遠鏡でみる星空

※1 ワークショップ … お互い協力し合い、与えられたテーマを元に展開するスタイルや会議の共同作業のこと。ファシリテーターを設定し、参加者がテーマに沿って発言。誰かの発言を否定することは言わない、それまでの概念にとらわれず自由な発想で言うなどが、基本的な決まり事です。

※2 ファシリテーター … 会議や商談などの場で参加者の発言を促したり、話をまとめたりすることで、話し合いをより良いゴールに導く進行役。

※前ページからのつづき

- ・市役所通りや、国道にいっぱいの美術品（モニュメント）がある
- ・勾玉浜（まがたまはま） ・犬の白浜 ・日本最南端のJR終着駅枕崎
- ・人が優しい ・言葉が分かりづらいが、熱い人が多い ・人情が熱い
- ・いで小屋の匂い ・かつおぶしの生産日本一！
- ・鰹船人めし ・はら皮 ・カツオ ・黒豚 ・枕崎牛 ・カツオ節 ・お茶
- ・明治蔵 ・品種豊富なカラ芋 ・自然と食の宝庫
- ・食の町枕崎と自慢できるくらい食べ物が美味しい

2. 今回足を運ばれた理由・思い・目的

次に、席替えを行い、新たなグループでの自己紹介を行った後、今回足を運ばれた理由・思い・目的を書いた付箋をテーブルの中央に出しながら、1人2分間ずつ思いを語っていただきました。また、ほかの参加者はその発言に対しての意見を付箋に書き込み、意見を述べる時間もそれぞれ設けられました。

- ・ワークショップを楽しみで来ました
- ・ワークショップで誰と会えるのか
- ・色々な人の意見を聞くため、人と人との出会いは大事だから
- ・みなさんがどのように考えているのか、知りたくてきました
- ・市議会議員の意見を聞きたい
- ・議員からのお誘い
- ・議員がどういう活動をしているのか知りたい ・案内のチラシを見た
- ・語る会でどんなことを話すか、どんな会なのか知りたかった
- ・行政や街の動きを確認するため議会傍聴によく行く。街はどう動くべきなのか、どうやったら町おこしに繋がられるかを自分なりに考えるため
- ・人口減少は一番の重要課題と思ったから
- ・枕崎の人口問題に興味があったから
- ・人口の問題 ・市政発展
- ・人口減＝働き手が少なくなる（子育て世代を大事にする）
- ・人口流出＝国が一極集中を強制的に防ぐこと
- ・生まれた後の支援だけではなく、安心して子育てができるよう地域で育てる風土を作っていかなければいけない
- ・安心して暮らせる社会にすれば、社会保障の財源を考える政策が生まれるのでは
- ・2022年度のふるさと納税が大幅に減少した理由と原因について追及したのか
- ・枕崎に企業誘致をし、もっと積極的に市が動き、若者が就職できて地元に残す働きかけをするべきだ
- ・市議会議員は日頃、何をしているのか全くわからない

※前ページからのつづき

- ・人口問題の具体策はあるのか？
- ・枕崎の人口が思ったより早く減少しているので気掛かり
- ・施策は多様なやり方があるがどれを優先して取り組むかが大事だ
- ・枕崎まで高速道路を通せたら枕崎が発展する（川辺トンネルが短くて残念・高速が知覧までだった）
- ・フェリーみしまを寄港させたい（三島村長の強い思いがある）
- ・子供を安心して生み、子育てできる街
- ・夫婦で子育てではなく、地域で、市全体で子育てを
- ・もっと若者に目を向けるべき　・枕崎の今後について心配である
- ・子供たちの安全対策、通学路の整備、給食費の無償化、教育資材の補助
- ・産婦人科問題は、国として取り組むべきである
- ・空き家バンクの政策を本気出してやっていない
- ・何事も思い切った政策をやるべきである
- ・子育て世代に支援を！出産祝い金、第1子100万円、第2子200万円と、100万円ずつ増やしてはどうか
- ・子供を産む目標がない、子どもを産み育てたいと考えられるように教育を変えられないだろうか
- ・高齢者の元気がない。もっとイキイキ生きるには
- ・ここに住んでもらい仕事を枕崎でしてほしい　・空き家対策をしてほしい
- ・市議会議員が目的を持ち、実現させていくことだと思う
- ・そこで育った人材に今の事業を譲っていきたいと考えている、常に次に続くことを考えることが大事　・地方でどうやって縦横をつなぐか、繋げる活動が必要
- ・街が共同体として動いていない。学びの場でいえば、学校、保育園にまかせっきり
- ・誰が見ても分かる広報でPRすること。過程を見せる市民の知るすべを充実すべき
- ・議会として決まったこと、議会から投げかけていることを、興味が持てるように周知してほしい　・政治家を育てる　・教育が大事
- ・ビラ、活動報告など、各議員がどのように自分の考えや行動を議員活動という形にしているのか、目に見える形の報告があれば興味が沸き、市民もついてくる、街も良くなる　・地域公共交通について（金山道野線、乗合タクシー問題）
- ・見方、考え方を変えること　・政治が大事、人口減少で税収が減っていく
- ・市議会議員に聞いてみたかった　・街のためにどんなことをしているのか知りたい
- ・若い人が住みたいという街にしてください
- ・労働者問題、高速道路、南さつま市に住む人が多い　・娯楽がない
- ・人口問題はいつ解決するのか　・ネット配信を活用し、もっとPR活動すべき

※前ページからのつづき

- ・市民の声を直接伝えられたのか疑問
- ・これからの枕崎に不安がある⇒若い人に暮らしやすい町、働く場所、議員にしかできないことをやってほしい、どんな人が来るのか気になった、議員の仕事がみえない、選挙の時だけではダメ、議員の意気込みを知りたい
- ・優先順位（人口増につながるもの・雇用につながるもの）やり方に失敗がある
- ・若者が働ける枕崎、大手企業が枕崎に来てほしい⇒合併していないから弱い、坊津を入れたかった（一緒に観光もプロジェクトできそう）税金も高くなるかも
- ・カツオの町、南薩地域で話し合って進めてほしい、南薩地域で工業を作る、市長、市議で話し合う、大きな工業団地、今後の参考にしたい
- ・枕崎は働く場所が少ない
- ・枕崎の学校給食は美味しい、市の補助でおいしい給食に補助を続けてほしい
- ・女性の賃金を上げるべきだ、同一労働同一賃金に

3. 自由討議

最後に、各グループで自由な意見を述べていただく雑談タイムが設けられました。

- ・ゴミ捨て問題
公民館費を払わないと捨てれない⇒そもそも公民館に入っていない
市税に上乗せして皆からとる⇒公民館ゴミ捨て場管理費
- ・高齢者対策（タクシーが少ない⇒乗合バス 買い物に行けない⇒移動販売）
- ・児童対策（子育て支援）
給食費無料化が出来ないなら他の対策
文房具や学用品の配布、全員が使う物の補助
- ・他市がしているから、魅力のある市へ若者は移住してしまうのでは？
住宅補助、働く所がない、買い物をする所が少ない
- ・道路を同じ所ばかり工事している
側溝の蓋⇒7～8年前に小学生が事故に遭った所しかしていない、他の所は手つかずだが？
- ・20代、30代が働きたい仕事、続けていきたい仕事、生活してみたい市
- ・中学生・高校生参加者 ・PTSDの対策 ・かつおの養殖
- ・DX時代に向けての人材育成（物事を行うのはすべて人）
- ・若い人の働く場の確保 ・隣町への移動手段がない（交通弱者問題）
- ・コンパクトシティ＝枕崎は便利が良い

※前ページからのつづき

- ・若い人たちの気持ちを大切に、団結して枕崎を盛り上げていけばいいのでは
- ・高齢者施設と子供たちが通えるような複合施設があってもいいのでは
- ・戦争を体験している。今も続く世界の戦争を止めたい！
- ・もっとガンガン意見を言いたかった ・ワークショップ形式のやり方？
- ・枕崎中学校の校則委員会は何を提言しても変わらない
- ・議員はしっかり勉強すべきである
- ・言葉狩りされる時代だから、女性軽視発言にもなるからなにも言えない時代
- ・ジェンダー平等で、下手なことは言えない時代
- ・人の意見を聞くことが大事、一呼吸おくことが必要。団体や自治体においてもなかなか役職の長や副にはつきたくないと言われているという
- ・人の話はよく聞きその人の真意をくみ取ること
- ・市民の直接の意見は何処で話すのか
- ・子供は親を、市民は市議を見ている。期待している
- ・他人やフレッシュな頭脳の中学生、高校生に考えさせられる
- ・予想外のやり方にびっくり！市民の声を本当にこれで聞けたのでしょうか？
- ・時間がもったいなかった

[議員の意見・総括]

今回、初めての試みとしてワークショップ形式で意見交換会を実施したことで出された議員の率直な意見をまとめました。

・ワークショップというスタイルを受け入れられる方、理解できない方がいたと思います。特にご年配の方にとっては良くなかったと思います。「今回の件についての回答は、議会だより、市報等で行うことについて、誰が広報紙等をみるのか。」との指摘があった。

・これからの社会を考えると政治が大事である。でも子供たちは政治家になりたくない。だから教育が大事である。

・アイスブレイクを挟み意見の吸い上げを始める形は、緊張をほぐし意見を出しやすくする意味でも良かった。一方、「いいですね」「そうですね」「わかりました」とうなずきながら肯定するには、話を聞く議員側の話題の中での差配が必要になる。今回のような形式においては、自分の意見を押しえながら、討論にならないよう相手の話を聞き受け取る姿勢を維持するのが難しいところでもあった。

全体的には共通認識の準備不足からくるバタバタな会であったと思うが、まずは議員側からコーディネーターと共に場をコントロールする意識を高めることで、よりスムーズで意見を吸い上げやすい会になるのではないかと考える。

発言者の時間配分のためベルが鳴らされことは、聞き手の議員が抑えられない話の

※前ページからのつづき

長さを区切る意味ではよかった。

・席替えのあとは、市民の方がお二人だったため結構話をする時間がとれた。お二人とも見てみてくださいと資料を提供して下さったり、これをネットで調べてくださいと検索するキーワードを紹介して下さった。日頃から枕崎に対する熱い思いがあるのだろうと強く感じた。また、どのグループも話が弾んで盛り上がっていたが、グループ内での話し声が聞き取りにくかった。

・今回、4年ぶりに市民と市議会との意見交換会を第三者の進行役を交え、32名の市民の方々に参加いただき議員12名で、初めての試みとしてワークショップ形式で、かなり困惑して同僚議員も戸惑い気味で進行の段取りがわからず市民の方々に若干の迷惑をかけたが、ユーモア溢れる先生の進行でスムーズに動き始めた。

まずは、議員1人に対し市民3人が1つのテーブルにつき枕崎のお気に入りポイントは何かという問いで全員に付箋に書いてもらった。70代男性2人、60代男性1人という構成でまず私から提出して「人情」「火之神から見える海岸線」というワードを書いた。誘導したわけではないが他の3人も似たような事を思ったようだ。次回からは、せーので出した方がいいのかなと感じた。

次に参加者全員に誕生日順に並んでもらい3人ずつに分かれて席替えを行い私のテーブルには、80代の女性、70代の男性、60代の男性が席に着いた。

次は足を運ばれた理由・思い・目的という題で答えを付箋に書いてもらいそのことについて1人2分間ずつ語って頂いた。皆さん白熱し2分間では足りない様子だった。

テーマである人口問題が大半を占めて、特に興味深い発言だったのが、地元出身者が就職等で都会に出ていき定年になったあとに生まれ育った枕崎に帰って生活してもらおう、空き家対策にもなる、そういう取組はできないのかという事だった。皆さんそれに食いつき、いろんな議論がなされた。私自身も、なかなか現役世代の人のUターン、移住は難しいものがあるので研究する必要があると感じた。

参加していただいた全員の意見を聞くという事で始まったこの会は、あっという間の1時間半だった。反省点を言わせてもらえれば初めての事で段取りが分かりづらかった点、そして、個々のテーブルが近すぎて自席のグループの人の声が聞きづらかった点である。

大半の参加者が大体満足している様子だったかなと感じた。次回開催するとしたら、このワークショップ形式で今回の反省点、問題点を克服して、もっと若い世代に呼びかけ参加してもらおう事が必要だ。

・市民との意見交換を通じて感じた事は、市民の意見や不満を聞き、解決することがなによりの政策であると痛感した。

※意見等は原文のままを掲載していますが、明らかな誤字・脱字及び表記の誤りや表現上、不適切な内容と判断された箇所については一部修正をしています。

※ 当日の意見交換会の様子

